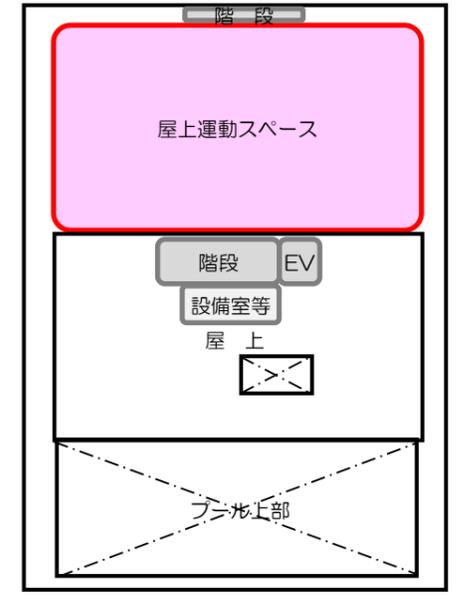


■平面計画について



本校舎や隣接する
こども園との交流
に利用します。

体育授業や本校舎との
交流に利用します。



低学年専用校舎としての 平面計画のポイント

【統一感のある教室配置】
広い校内で統一感のあるわかりやすい教室配置をすることで、学校生活に早く慣れることができる

【トイレ水飲み場などの混雑防止】
低学年の身体寸法に合わせ各普通教室からのアクセスが容易になる場所へトイレや水飲み場を配置

【オープンスペース】
授業での活用やコミュニケーションの場として活用するなど、低学年児童の学校生活を豊かにする多様な活用の場として計画

- ベンチや絵本を置くなど児童の憩いの空間
- 児童同士のコミュニケーションの場
- 図工等の授業での活用
→大きい作品など教室では難しい
大がかりな作業が可能

- <凡例>
- : 普通教室
 - : 特別教室
 - : 職員管理室
 - : 運動エリア
 - : プレディプラス
 - : その他
 - : 廊下
 - ★ : 施設開放
 - : 門扉・フェンス・防球ネット

■施設開放時の動線計画

<施設開放利用者の動線>

- ① 正門のインターホンにて連絡後、校内に入り主事室で受付をする。(受付後、1階の更衣室が利用可能)
- ② 地上運動場利用者は昇降口から校庭へ出る。体育館利用者は階段またはエレベーターを利用して4階へ行く。



1F平面図



4F平面図

施設開放時は利用エリアを扉やシャッター等で区画するため、他階や教室エリアには出入りできません。



■ 景観デザイン計画について

□ 低学年専用校舎としての計画

○ 児童同士の交流やさまざまな体験をすることで情緒を育み社会性を身につけることができる安全な校舎

- ・ 授業以外の日常生活の中でも他クラスの児童との交流が自然に生まれる計画。
- ・ 生活科や体育科などの小学校低学年ならではの体験活動を豊かに行える計画。
- ・ 低学年の児童が安心して安全に生活できる校舎。

□ 環境への配慮

○ 高い省エネ性能を備えた施設の整備・ZEB※化の推進

- ・ 「中央区基本計画2023」に示すとおり、新たに建設する区有施設においては、省エネルギー技術の導入によるZEB化の実現を目指す。

※ZEB：Net Zero Energy Buildingの略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。
「中央区基本計画2023」におけるZEB化は、「ZEB Ready」「ZEB Oriented」の水準相当を指す。

□ 計画敷地の与条件

① 水辺景観形成特別地区（景観法に基づく東京都景観計画）

- ・ 水辺を生かした景観形成
- ・ 環状第2号線沿道の街並み形成

② 臨海景観基本軸（景観法に基づく東京都景観計画）

- ・ 水域側にオープンスペースを設け**圧迫感を軽減する**配置とする。
- ・ 壁面の位置の連続性や適切な隣棟間隔の確保など、周辺の**街並みに配慮**した配置とする。
- ・ 周辺の主要な眺望点（道路・河川・公園など）からの見え方に配慮する。
- ・ 形態・意匠は、**建築物自体のバランス**だけでなく、**周辺景観との調和**を図る。

③ 水と緑のネットワーク（中央区の緑の基本計画、晴海まちづくりの考え方、豊洲・晴海開発整備計画等）

- ・ まとまった緑地を緑の拠点とし、街路や水辺沿いの**緑の軸で線的に結ぶ**ことにより、風の道にも配慮した水と緑のネットワークの形成を図ります。
- ・ 緑の軸は、「**街路の緑**」と、「**水辺の緑**」を2つの主たる軸と位置づけ、緑の拠点とのつながりにも配慮し、**ネットワークの充実**を図ります。

④ 緑地面積の確保

「東京における自然の保護と回復に関する条例」により、当計画では**地上部と建築物上でそれぞれ一定割合以上の緑地面積**を確保する必要がある。



□ 景観形成の目標

① 水辺の風景と調和した景観の形成

◇ 周辺の高層ビルの建築群や豊洲大橋などの橋梁によるダイナミックな都市景観を背景に、計画地においては緑道公園の自然やにぎわいと調和に配慮しながら、水辺での豊かな景観を形成する。

② 環境に配慮した景観の形成

◇ 沿道での緑の連続性や水辺空間からの開放性などに配慮しながら、潤いとにぎわいを感じる街並みや環境を創出する。

③ 地域の人々が親しみやすい景観の形成

◇ 地域に育つ児童達の学び舎として、また地域の生活や交流を支える公共施設として、周辺の街並みや自然を活かした親しみやすさが感じられる景観を形成する。

① 水辺の風景と調和した景観の形成

◇ 校庭を南側に配置し、公園との連続性を確保

⇒ 豊かな水辺環境の創出に配慮するとともに、低学年児童が活動する明るい運動場エリアを確保する。

② 環境に配慮した景観の形成

◇ 緑道公園側や敷地東側に植栽を計画

⇒ 植物の成長や四季を感じられる植栽計画により低学年児童の自然体験を推進する。
⇒ 緑道公園のにぎわいと調和を連続させ、緑のネットワークを形成する。

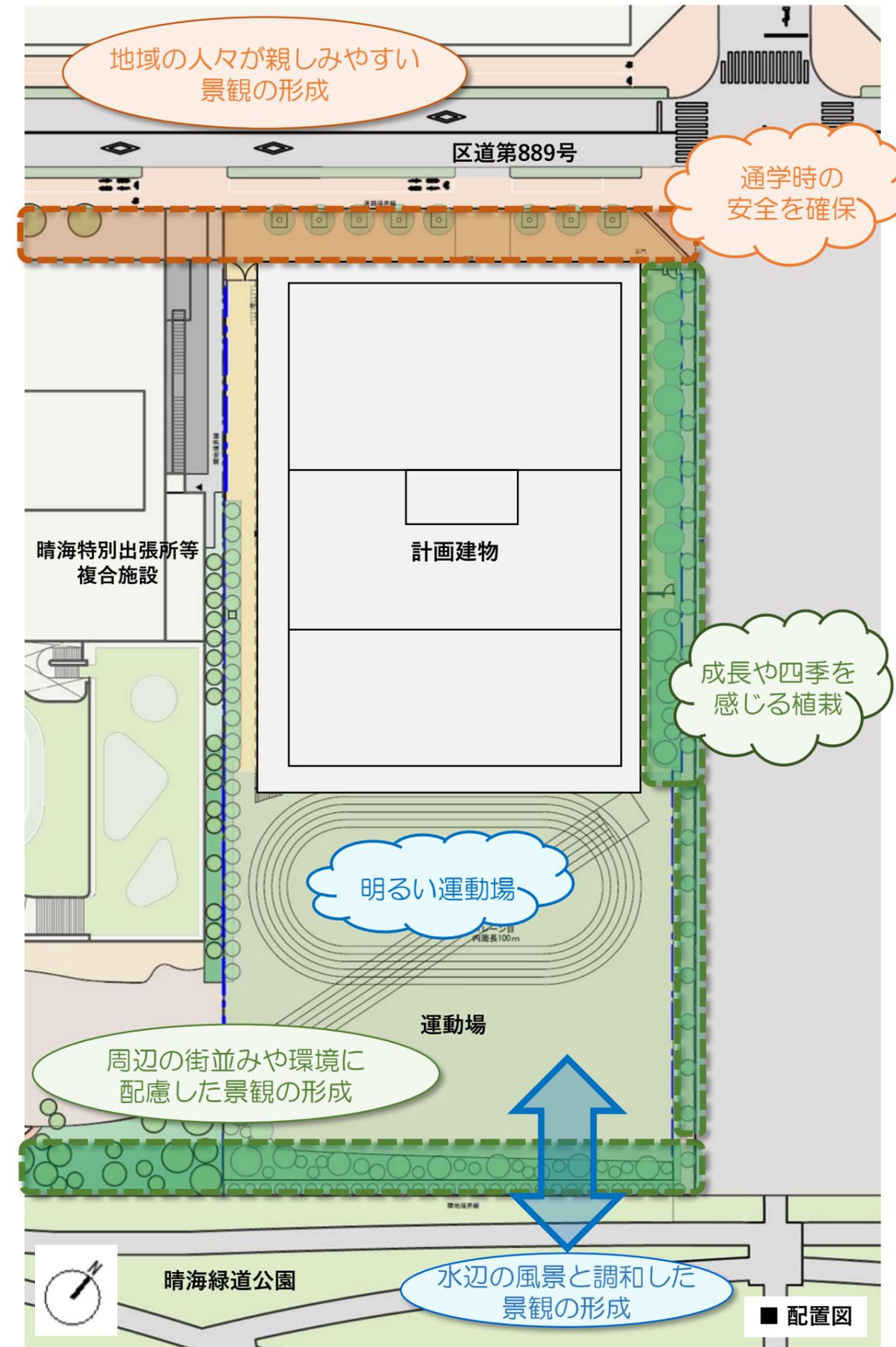
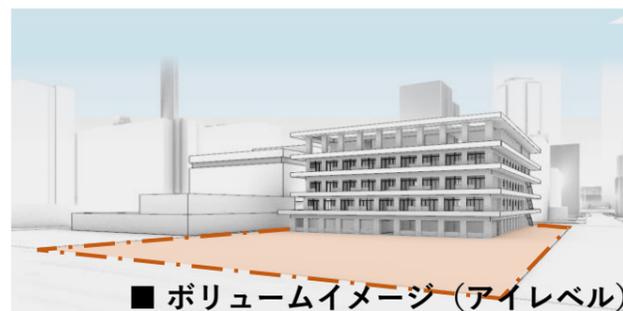
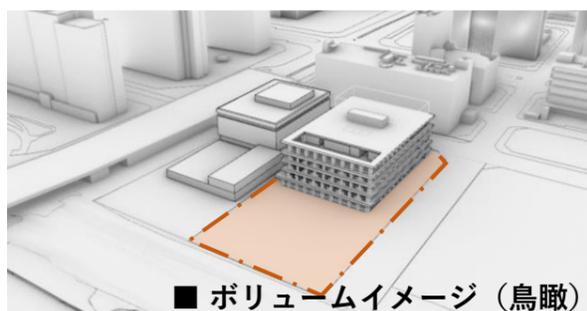
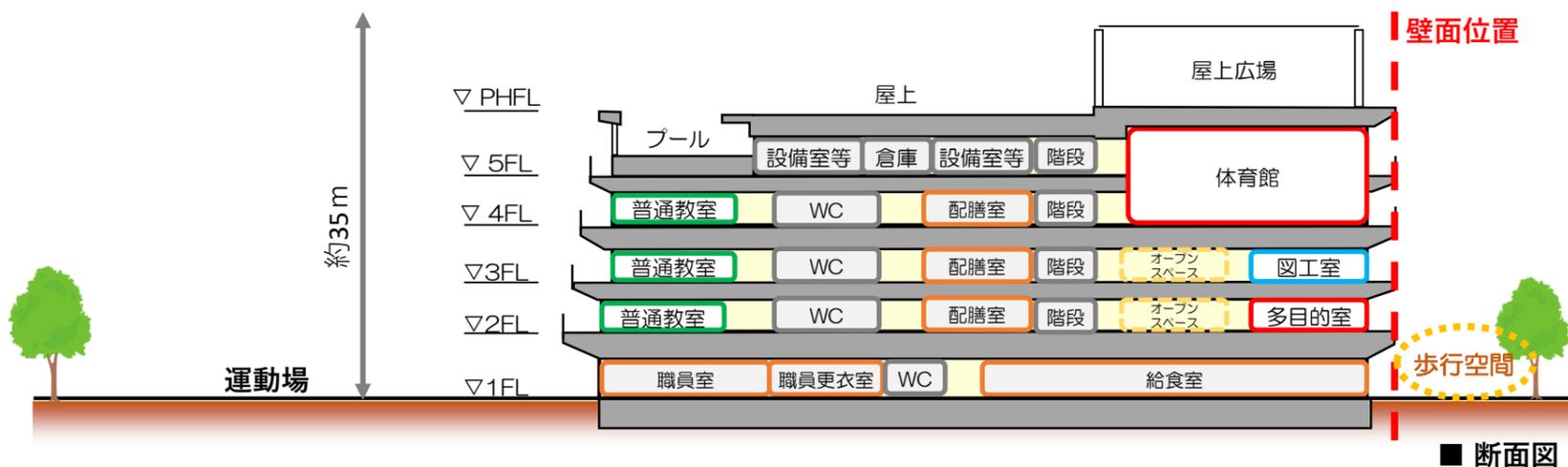
◇ 軒の深いバルコニーを設置

⇒ 日射抑制や緑化面積の確保による環境への配慮を図るとともに、落下対策を図り低学年児童の安全にも配慮する。

③ 地域の人々が親しみやすい景観の形成

◇ 隣接する晴海特別出張所等複合施設と建物の高さや壁面の位置を揃える

⇒ ゆとりのある歩行空間を設け、通学に不慣れな低学年児童の安全を確保する。
⇒ 連続した街並みや景観形成に寄与する。



■ 中央区内小学校デザイン事例

■ 隣接施設

	晴海西小学校・晴海西中学校	中央小学校	豊海小学校	晴海特別出張所等複合施設
外観				
				
特徴	<p>新しいまちや社会の将来的な変化に対応する可変性を持たせた施設。小学校・中学校を一体で整備。</p>	<p>敷地を最大限に活用するため、屋上校庭などを整備。壁面の工夫等により周辺環境との調和を実現。</p>	<p>運河に開けた校庭、歩行者空間と一体となる緑地により、開放的な地域特性と調和した景観を形成。</p>	<p>建物が晴海運河に向かって段階的に低くなる配置により晴海緑道公園と一体となった空間を形成。</p>
	<p>ボリュームの分節</p> <p>低層に抑えた計画とし、水平の広がり強調した伸びやかな表情。</p>	<p>教育環境のしかけ</p> <p>内装の自然素材や植栽など、子どもたちが見て、触れて、においを感じながら学べるしかけを随所に取り入れた。</p>	<p>空・海・緑と調和した外装</p> <p>低層部は柔らかく温かみのあるせっ器質タイルなどの素材とし、中高層部は明るく白を基調とした素材を採用。</p>	<p>人々を迎え入れる顔づくり</p> <p>歩道と一体となったオープンスペースに面してエントランスを設け、地域の居場所となる公共施設としての顔を形成。</p>
	<p>賑わいの創出</p> <p>街路に面した体育館などの大空間を支える構造形式はシンボル性が高く変化に富み、表出させることで賑わいの創出に寄与。</p>	<p>周辺環境への配慮</p> <p>長い壁面を分節化する緑化ルーバーや木ルーバーを設けることで、圧迫感の低減やプライバシーへの配慮に対応。</p>	<p>伸びやかな水平ライン</p> <p>子どもたちの感性が豊かになるよう願いを込め、豊海の広い水平線をイメージさせる外観デザイン。</p>	<p>2要素で建物ボリュームを形成</p> <p>中高層部をキューブ状、低層部をプレート状の形態とすることで、施設としての象徴性と開かれたイメージを創出。</p>
	<p>環境負荷の低減</p> <p>バルコニーの庇効果に加え、緑化を設け、季節に応じた自然光の調整により、適度な採光と開口部からの熱負荷を低減。</p>	<p>歴史と伝統</p> <p>昇降口に半円形扉といった震災復興小学校のデザインを部分復元し、歴史と伝統の継承・発展をイメージ。</p>	<p>上昇感のある軽快なデザイン</p> <p>水平ラインを貫くように縦ラインを配置。子どもたちの健やかな成長をイメージした空へと続くような外観デザイン。</p>	<p>色彩と耐久性の両立</p> <p>外装は中高層部を開放的な明るい色彩、低層部を親しみある低彩度の色彩としつつ、海岸地域であることから耐久性を考慮。</p>
	<p>勝どき方面からの眺望</p> <p>勝どき方面から見える学校施設の顔として、公共施設にふさわしいデザイン。</p>	<p>日常生活に結び付く緑化</p> <p>花壇・ビオトープなど、多様な植物を見て、触れ、興味や安らぎを感じる緑化計画。</p>	<p>緑と調和した街並み</p> <p>公園や歩道に面して随所に木々や花を配置し、明るく爽やかな歩行者空間を創出。</p>	<p>緑化空間の接続による一体化</p> <p>周辺の沿道緑化を晴海緑道公園に接続し、一体的な緑化空間を形成。</p>